

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	11
2. 地域との支えあい	2
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	3
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2374500607
法人名	株式会社ハルス
事業所名	グループホーム はるすのお家 尾張旭
訪問調査日	平成20年9月19日
評価確定日	平成20年10月17日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

〔取り組みを期待したい項目〕

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

〔取り組みを期待したい内容〕

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月20日

【評価実施概要】

事業所番号	2374500607
法人名	株式会社ハルス
事業所名	グループホーム はるすのお家 尾張旭
所在地	尾張旭市庄中町渋川353番地 (電 話) 0561-54-5508

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7 A		
訪問調査日	平成20年9月19日	評価確定日	平成20年10月17日

【情報提供票より】（平成20年8月31日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年12月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 8人, 非常勤 13人, 常勤換算 3人	

（２）建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	2 階建ての 1～2 階部分

（３）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	60,000	円	その他の経費(月額)	11,100	円	
敷金	有（円）		無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有（円） 無		有りの場合 償却の有無	有 / 無		
食材料費	朝食	150	円	昼食	370	円
	夕食	370	円	おやつ	150	円
	または1日当たり			円		

（４）利用者の概要（平成20年8月31日現在 ）

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護 1	4名	要介護 2	4名		
要介護 3	6名	要介護 4	3名		
要介護 5	1名	要支援 2	0名		
年齢	平均 85.16 歳	最低 71 歳	最高 98 歳		
協力医療機関名	旭労災病院・川島病院・尾張旭市歯科医師会				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは幹線道路から1歩奥に入った静かな住宅地にあり、南向きで日当たり良く、緩やかなスロープで玄関にたどり着くことができる。庭には季節の花や野菜が育っている。目の前には地域の集会所があり、地域の行事の折には声をかけてもらい、いろいろな行事に参加し楽しんでいる。近くにはスーパーもあり、毎日職員と一緒に買物に出かけたり、病院や外食、時には遠くへ外出するなどホームに閉じこもらない生活が支援されている。散歩時の挨拶や公園の清掃、地域の行事に参加することで地域との良好な関係が構築されている。また、地域の一員として普通にその人らしく穏やかに安心して生活することを目指している。鍵をかけることが解決にはならないという管理者の思いもあり、入居者は制止されることなく、見守られながら自由に出入りしている。家族アンケートからも家庭的で温かい雰囲気と風通しのよい人間関係が保たれていることがうかがえる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 従来の介護理念に「地域の一員として公共機関や地域社会の方々と協力して支援します」という地域密着型としての理念も盛り込み、玄関やロビーに掲示した。「重度化及び終末期指針」については入居当初から家族、かかりつけ医、職員とよく話し合っているが個々により状況は違い、支援体制について文章化には至っていない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 自己評価は職員全員が日常業務を見直し気づきへと繋げる機会として取り組んだ。管理者は何より家族の意見が第三者を通して知ることができ、有意義と感じている。評価結果は家族や職員、運営推進委員会でも説明し、改善向上を図っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 運営推進会議は2カ月に1回尾張旭市職員、民生委員、市議会議員、地域の他グループホーム管理者や家族、時には地域医療のソーシャルワーカーの参加も得て開催している。ホームの日常生活の報告をし現状の課題などの話し合いをしている。家族からはボランティアを入れる取り組みの提案や、民生委員からは市の行事を教えていただいたり、市は高速高架下の道路に「スピード出すな」の看板の設置をしていたなど、地域に馴染んだホームづくりに向け協力を得られることを認識できた。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 重要事項説明書には苦情や相談窓口である管理者と行政担当者が明記されており、契約時に説明をしている。家族が気兼ねなく意見や不満、苦情を言えるように玄関には意見箱が置かれ、今までに1件意見が出されたことがある。苦情や不満に対しては真摯に受け止め、改善に努力する。家族会はないが家族の顔を見たら声かけして話を聞いたりするなど、家族との良好な関係づくりに努めている。
重点項目③	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 地域の一員として町内会に加入し、公園の草取りや清掃、防犯パトロールや地域防災訓練行事にも参加し、付き合いを深める中で地域からも盆踊りや祭り、校区の運動会にも誘いの声がかかるなど受け入れてくれている。野菜を届けてくれる人もいる。また、市から「スクールガード」や「こども110番の家」も受託し、子ども達とのふれあいは入居者のやりがいに繋がっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人がその人としてその人らしく生きるために支え続けることを使命とします」という従来の介護理念に、入居者も一緒に活動に参加している地域との関わりを大切にしていこうと「地域の一員として公共機関や地域社会の方々と協力して支援します」という地域密着型としての役割を反映した理念も盛り込み、玄関やリビングに掲示してある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のミーティング時には理念を声に出して復唱し、確認や共有、意識づけ、実践するように努めている。職員は理念に沿った生活支援や介護を行なっている。また、介護計画の中にも理念を組み込んで、地域の中で家族や地域の人と関わり、その人らしく普通に生活する支援計画になるよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として町内会に加入し、公園の草取りや清掃、防犯パトロールや地域防災訓練行事にも参加し、付き合いを深める中で地域からも盆踊りや祭り、校区の運動会にも誘いの声がかかるなど受け入れてくれている。野菜を届けてくれる人もいる。また、市から「スクールガード」や「こども110番の家」も受託し、子ども達とのふれあいは入居者のやりがいに繋がっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員が日常業務を見直し気づきへと繋げる機会として取り組んだ。管理者は何より家族の意見が第三者を通して知ることができ、有意義と感じている。評価結果は家族や職員、運営推進委員会でも説明し、具体的に改善向上を図っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1回尾張旭市職員、民生委員、市議会議員、地域の他グループホーム管理者や家族、時には地域医療のソーシャルワーカーの参加も得て開催している。ホームの日常生活の報告をし現状の課題などの話し合いをしている。家族からはボランティアを入れる取り組みの提案や、民生委員からは市の行事を教えていただいたり、市は高速高架下の道路に「スピード出すな」の看板の設置をしていただくなど、地域に馴染んだホームづくりに向け協力を得られることを認識できた。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認定時は入居者と一緒に市役所へ行ったり、事業所の実情を常に報告している。運営や支援の課題の相談にも乗ってもらい、市からアドバイスもいただいている。尾張旭市介護事業者連絡会議に参加し、市民祭のリサイクルバザーにも出品参加している。「こども110番」「スクールガード」「介護相談」も受託している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、「はるす通信」と共に生活状況や健康状態、金銭出納、行事案内などを家族に郵送している。面会時に声かけし、重要なことについては管理者かフロアリーダーが話している。体調不良の場合はこまめに電話で連絡をとり、良くなった時にも連絡して共有している。また、職員の写真や入居者の家族写真を貼り、家族と職員が互いに認識できるようにするなど家族と良好な関係づくりを図っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書には苦情や相談窓口である管理者と行政担当者が明記されており、契約時に説明をしている。家族が気兼ねなく意見や不満、苦情を言えるように玄関には意見箱が置かれ、今までに1件意見が出されたことがある。苦情や不満に対しては真摯に受け止め、改善に努力する。家族会はないが家族の顔を見たら声かけして話を聞いたりするなど、家族との良好な関係づくりに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動はないが風通しのよい職場づくりを目指し、4月に1、2階数名入れ替えするが、1～2日は以前からの職員と一緒に作業し、スムーズに移行できるようにしておりダメージはない。毎日の出勤、退勤時には1、2階共に顔を出して挨拶するなどコミュニケーションを日頃から図るようにしている。管理者はダメージを防ぐためにも「この人でなければ」でなく、他の職員にも伝えられる仕事であるようにと考えている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員は1カ月の研修期間があり、先輩職員からも指導を受けながら研修していく。毎月、介護技術や認知症に関する勉強会を行なっている。他施設の研修会や講習会など外部研修にも参加し、研修報告をミーティング時に発表する機会を設けている。事務所には研修会や講習会のチラシを貼るなどして情報を提供し、支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	尾張旭市や岩倉市の介護事業所連絡会の会議に参加したり、法人内での職員の交換研修もしている。また、年に1度、他施設での実習研修の機会も設けている。近くのグループホームとはバーベキューなどの行事に呼んだり、入居者も一緒に呼ばれたり、勉強会にも互いに行き来して交流する機会を持っている。他の施設の勉強会に参加することでサービスの質の向上へのきっかけとしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居相談やホーム見学後、お試し入居やお試しデイサービスである程度の期間本人の様子を見ながらサービスを開始するようにして、徐々にホームでの生活に慣れていけるよう配慮している。家族にはセンター方式で記入してもらい、得意、不得手、趣味など情報を得て信頼関係の構築に役立てている。また、これまで利用していたサービス事業者から情報を得たり、顔を出してもらうことで安心される入居者が多い。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員は共に生活、行動し、互いに助け合い支え合って暮らしている。対等な立場からの自立支援を目指し、その人を受け止め、全てやってみるまでできないことへの援助を行なっている。職員と一緒に生活する中で人生の先輩として入居者から学ぶことも多く、季節や行事の料理、習わし、家事や裁縫などを教えてもらったり、時には子育ての相談に乗り励まし支援してくれる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3カ月に1度のモニタリングで本人の思いや意向を話し合い、介護計画を作成している。日頃の会話の中で出た希望を実行できるよう検討し、いつも入居者本人の思いを大切に支援している。家族に生活歴や得意だったこと、逆に苦手だったことなどをうかがい、それを生かせるよう入居者の視点に立った対応を心がけ、安全な限り今までの暮らし方を支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画は職員全員が参加する毎月のミーティングでの話し合いを基に計画作成担当者が作成する。職員は日頃の入居者の様子や自分の気づきなど活発に意見を出している。また、初回面接や日々の会話から入居者や家族の願いを汲みあげている。計画書には入居者がよりよく暮らせるためのケアのアイデアと工夫の項目があり職員の意見が反映されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは入居者ごとに3カ月に1度行なっている。モニタリングシートに各職員のサービス実施への評価や達成度をまとめ、本人や家族の満足度や計画の評価をしている。毎月のミーティングで決められた人について職員全員で検討し、継続、または、新しい計画に繋げているが、体調変化などあった場合は必要に応じてすぐに見直しを行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の付き添いは基本的には家族が行うこととなっているが状況に応じて付き添いや送迎を行う。入院時には管理者が家族や病院と話し合い安心でき、できるだけ早く退院できるよう支援している。個別の外出として覚王山や明治村など入居者一人ひとりの思い出の場所に出かけた。入居者親族の通夜、葬儀に付き添ったこともある。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も今までのかかりつけ医の受診、往診を続けることができる。受診の際にはバイタルと最近の状況を記入した用紙を持って行き医師の意見をもらうか電話で聞いている。かかりつけ医や看護師には何かあると連絡しアドバイスを受ける。健康診断や血液検査は年1度行われ、検査結果などのデータはホームでも管理している。体重測定は毎月2回行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にホームでできること、できないことを話している。重度化した場合は状態に合わせその都度家族や医師と相談し、職員間でも現状に即して具体的に話し合っ対応しているが、最終的には家族の希望により入院するケースが多い。一人ひとり状況が違うので方針を文書化することは難しいと考えている。	○	重度化に対応したケースもあるので、重度化した場合や終末期に向けたホームの基本的な姿勢を指針として示し、関係者全員で共有することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居時に個人情報の利用目的、開示、写真掲載に関して説明し同意を得ている。個人情報が載っている書類は外に持ち出さないよう職員に徹底している。名前が書いてある薬の袋の取り扱いにも気をつけている。入居者への言葉かけは誇りを損ねないよう本人に受け入れられるよう気をつけている。トイレの入り口もあえて死角となる場所にしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の過ごし方は違い、その日の希望や身体状況に合わせ、散歩や買い物に出かけたり、歌を歌ったり、おしゃべりしたり、昼寝をしたりと入居者のペースに合わせた暮らしを支援している。時にはお寺のお参りや思い出の地に遠出することもある。職員は今のその人のその人らしさを受け入れ、本人の必要としている支援に結びつけるように努めている。また、すぐに手助けをするのではなく、本人がやれる所はやってもらう支援をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物に行って好きなものを選んだり、好みを聞いたり相談したりと準備段階から入居者と職員が一緒になって食事作りをしている。野菜を切ったりお皿を選んだり、本人のできることを手伝っている。調理は季節の野菜や薬味を使って美味しく食べられるよう工夫している。自分で食べる喜びを感じてもらえるようになるべく自分の手で食べるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があれば毎日入浴できる。午後の時間帯でなるべく一人ひとりの希望に添えるよう声かけをしている。仲の良い人が2人で入ることもある。体調不良などで入浴できないときは足湯や清拭、陰部洗浄で清潔を保つようにしている。介助が必要な人以外は職員は脱衣室で見守っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日めくりをめくったり繕い物をしたり畑の手入れをするなどできること、得意なことを行っている。スクールガードとして帽子と腕章、たすきを身につけ登校時の子どもを見守ることが張り合いとなっていたり、毎日日記をつけている入居者もいる。できないと決め付けないで声をかけたり一緒にやってみてできること、楽しいことを見つけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は基本的には職員と入居者が1対1で行い、毎日交代で職員と一緒に買い物に出かけホームの食品や雑貨のほか個人の買い物などを行っている。週1回の喫茶、月1回の外食を楽しみ、馴染みの店もできた。3人ずつ3カ月に1度、温泉やイチゴ狩りなどに出かけている。玄関横の広いスロープ部分で散歩や日光浴もする。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないことを当たり前のこととして日中はすべての出入り口を開放している。2階階段の前には事故防止のためにフェンスを設置しているが自由に開けることができるようになっている。1、2階の入り口にはセンサーを設置したり、入居者の動きに気を配ることで安全を図っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は3カ月に1度時間帯を変えて実施している。災害に備え水、米のほか五目御飯、ポカリスエット、コンロ、懐中電灯、おむつ、簡易トイレなどを備蓄している。玄関には入居者一人ひとりが避難する際、首にかけの防災カードを置き、基本情報のほか認知症についての状態を伝えられるようにしている。家族にも呼びかけ災害用伝言ダイヤルの練習をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は入居者の希望やその日の食材を基に考えられており、カロリー計算はされていないが、体重の変化や血液検査の結果を見て健康管理をしている。特に繊維質の多い食品を多く取り入れるよう気をつけ栄養バランスを考えている。水分摂取に注意し、ことに夏場は1時間おきぐらいに声をかけている。毎食後の食事摂取量、水分摂取量を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の窓はすべて掃きだしになっていてすぐにベランダに出ることができ、明るく開放的である。畳のスペースがあり、入居者が横になったり洗濯物たたみをするなど有効に使われている。玄関には入居者と家族と一緒にの写真、廊下には職員の顔写真などが飾られているが、過剰な掲示や装飾がなく落ち着いている。トイレなどの水周りの壁紙や床の色調は明るく暖かく感じられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口には入居者が作ったのれんがかけられており、室内には鏡台や仏壇、机といす、座り机などが持ち込まれている。壁には各入居者の日頃の様子を写した写真が貼ってあり、過去のものをまとめてアルバムとして置いてある。時計や人形、家族の写真、観葉植物などそれぞれのお気に入りの物が飾られていてその人らしさが表れている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。